様式1 # 平成28年度　山梨県立中央高等学校・定時制　評価報告書（自己評価・学校関係者評価）

学校目標・経営方針	自尊感情を高め、社会の中で自立する生徒を育てる。

山梨県立中央高等学校校長　山本　英樹

本年度の重点目標	
	1　自ら進んで学習に取り組む意欲を高め、確かな学力を育成する
	2　CHUOハーモニックプランに基づき、社会において自立できる力を育てる
	3　自主的に健康で安全な生活を送ることのできる実践力を育てる

達成度		
	A	ほぼ達成できた。（8割以上）
	B	概ね達成できた。（6割以上）
	C	不十分である。（4割以上）
	D	達成できなかった。（4割以下）

評価		
	4	良くできている。
	3	できている。
	2	あまりできていない。
	1	できていない。

自　己　評　価							学校関係者評価	
	本年度の重点目標			年度末評価（2月15日現在）			実施日　（平成29年3月6日）	
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策	評価	意見・要望等
1	自ら進んで学習に取り組む意欲を高め、確かな学力を育成する	学習意欲を高める教材や自己の在り方生き方についての考察を深める教材の工夫 アクティブ・ラーニング法による授業実践の観察（研究授業を専門教科と他教科各1） 三部制に対応した教育課程の編成 主体的な学びを定着させるための、個別課外の実施や学習室の設置等、学習環境の整備	定通研レポート 振り返りシート 授業アンケート 指導案、授業観察記録表 授業アンケート 教育課程の編成 計画的実施状況	・教職員は各々が教材への工夫ができていると9割以上が評価しているが、生徒や保護者の評価は7割程度の評価しか得られなかった。 ・専門教科と他教科において、指導案で「めあてや手立て」が明確となっている研究授業を観察することで、自らの授業への工夫改善が具体的な方策に繋げられた。また12月にアクティブ・ラーニング研修会は他校と教諭の参加もあり、主体的で活発な研修の場となり教職員の意欲の向上が図られた。 ・特に平成25年度から新設された午前部の生徒の実態を考慮した教育課程の改善を図ることができた。 ・平成27年度から学習室が設置され、個別に学習する生徒は少数であるが存在している。しかし、今年度は職員の異動が多かったため、学校の体制で個別課外の推進までは至らなかった。	B	・生徒の発達段階に即した内容の工夫やニーズを把握すよう努めていく。 ・アクティブ・ラーニング研修会が教職員の資質・能力の向上に役立つ有意義な内容であり、教職員の意欲的に取り組んでいた。次年度も引き続き研修会を実施し(6月に計画)、主体的で対話的で深い学びができる授業実践を増やしていく。 ・三部制の生徒の実態を考慮した教育課程の改善が図られた。次期学習指導要領や高校への通級指導など、教育の質の転換が求められているので、短期的な視点だけでなく、中長期的な視点での検討もしていく。 ・三部制のため放課後となれる時間的余裕がないが、入学後に学力が向上している生徒や進路実現のための個別指導が実施できる機会を見出していく。	3	・アクティブ・ラーニング研修会は教職員の資質・能力の向上に成果をあげており、教職員の意欲の向上が図られるので、今後も継続していってほしい。 ・アクティブ・ラーニング法による授業実践は、生徒に自信を持たせるために大変効果的だと思われる。さらに推進していただきたい。 ・学習意欲を高めるために、さらに教材を工夫し、わかりやすい授業をするよう心がけていただきたい。 ・個別指導が実施できる機会を確保していくことと、学習室を活用し個別課外の推進を図ることが今後の課題である。
2	CHUOハーモニックプランに基づき、生徒の社会において自立できる力を育てる	分掌や年次によるハーモニックプランの実践 入学から卒業までの系統的なキャリア教育の充実 生徒の状況に即した総合的な学習の時間の計画的運営 育成意図を明確にした活動による豊かな心の育成と社会性の育成	課題別評価表、自己観察書などでの計画実施状況 LHR・総合・行事などの計画実施状況 計画的実施状況 計画実施状況 アンケート調査	・総務企画係を主体とした企画運営を行うことで、分掌や年次の連携した実践がなされた。また、自尊感情の向上や社会性の育成することの重要性が浸透し、具体的な目標を立て、手立てを工夫した実践事例も増えてきている。 ・入学から卒業までの系統的な繋がりへのプロセスとして、総合的な学習や学校行事を横断的に繋げることができた。 ・体験的な活動を増やしたことで、生徒の自尊感情の向上と社会性の育成を目指した計画的運営ができた。 ・今年度新たに実施した校外学習「ENSOKU」が育成意図を明確にした活動となり、またこの活動を軸に、総合的な学習やLHRなどで豊かな心や社会性を育成できる活動が展開できた。	A	・本年度はハーモニックプランの骨格が固まった。次年度は総務企画、年次・分掌が連携した運営がなされる体制を築いていく。また各担任がHR活動での具体的な実践例を増やせるようにしていく。 ・総合的な学習や学校行事を授業とも横断的に繋げ、生徒の深い学びとなるような計画の更なる改善に努めていく。 ・今年度の計画を軸とし、次年度には振り返りシートを作成し、生徒が成長を自覚できるような工夫をしていく。 ・より多くの職員が、育成意図を意識し、手立ての工夫できるようにしていく。	4	・総合的な学習や学校行事を通じ、また、校外学習やLHRなどを通じて、自尊感情の向上と社会性の育成に成果をあげていることがうかがわれる。 ・体験的な活動を増やしたことが、成果をあげているので、今後とも工夫しながら体験的な活動を増やしていってほしい。 ・生徒を自立させるために一番必要なことは自信をもたせることである。ハーモニックプランを推進し、スポーツ、商業実務、文化芸術等の大会で全日制の生徒に負けないだけの力をつける指導をさらに進めていただきたい。 ・インターンシップ、ボランティア活動、あいさつ運動など、社会性を育成する活動をさらに推進していただきたい。
3	生徒が自主的に健康で安全な生活を送ることのできる実践力を育てる	挨拶をきっかけとした教師と生徒の信頼関係づくり 教師の対応力（生徒・保護者への対応、危機管理などの力）の向上 支援から自立、支援から外部支援と繋げる体制づくり 生徒の安全確保体制の整備	登校指導や号令時や日常の様子、アンケート調査 生徒指導・支援会議などの指導状況報告、アンケート調査 生徒指導・支援会議、進路決定状況 危機管理マニュアル 防災計画書の内容	・今年度から、信頼関係づくりという意図で挨拶運動を展開し、職員や生徒からも評価が得られ、学校の雰囲気も明るくなってきている。 ・教師の対応力の向上では、教師アンケートで9割以上の評価を得た。対応については誠意を持って向き合おうとする意識が向上しきている。 ・支援から外部支援に繋げるケース会議を実施した事例が増え、体制が構築されつつあり、教員アンケートでも非常に高い評価を得た。 ・危機管理マニュアルの作成や避難訓練実施、また心身の安全に関する体制も整備もされていることから、職員や生徒アンケートの評価は非常に高かった。	A	・登校時の挨拶がしあえる関係が定着したので、次年度は号令時や廊下でのすれ違い時に挨拶しあえる関係を推進する。 ・アンケートから、学校の様子がわからないと答える保護者が1割ほどいることが把握できた。今後は、三者懇談時での情報提供にも力を入れる。またメールへのブログ発信なども検討していく。 ・支援から自立、支援から外部支援と繋げる過程は容易ではないことを実感した。そのことを理解した上で、今後も開拓できるような体制づくりが重要である。 ・防災訓練を工夫し、生徒の主体的かつ柔軟な行動力を養っていける企画を目指していく。 ・備蓄品の点検整備への活用など防災消防計画の実効化を図り、危機管理体制の強化を推進する。	4	・挨拶運動の成果が出て、教職員と生徒との信頼関係が形成されている。 ・危機管理マニュアルの作成や避難訓練の実施心身の安全に関する体制の整備が図られている。 ・支援から自立、支援から外部支援と繋げる体制を今後とも充実させていってほしい。 ・今年度の中途退学者は減少している。生徒へのアンケートでも、生徒一人ひとりを大切にし、いじめのない、安心安全な学校であることが伺え、中学、全日制高校などで行き場所を失った生徒の受け皿としての役割を果たしている。 ・午前部には進学希望の生徒も多いと思われるが、先生方は生徒の学力を伸ばし、全日制に追いつき、追い越すという気持ちで指導に情熱を注いでいただきたい。

留意点　（1）重点目標と評価項目については，各学校の現状と課題に基づき，実情に合わせて重点化し，設定する。
（2）学校関係者評価については，年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し，評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは，最終回の学校評価委員会等を開催し，学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。